

ATRV  
アトルブ  
NO. 4

2025年  
6月30日

特定非営利活動法人  
多摩都市構想研究会  
代表 櫻井 崑  
発刊



2025年度総会報告

多摩都市構想研究会

会長 櫻井 崑

新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より多摩都市構想研究会の活動にご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。

令和7年度総会を5月22日に立川中央病院の会議室をお借りし滞りなく開催いたしました。

総会では、昨年度の事業報告・決算、ならびに本年度の事業計画・予算案を承認いたきました。改めて深く感謝申し上げま

す。  
ようやくコロナ禍の危機的状況を脱し、社会・経済活動が平常化するなか、当会としても、これまで制約されていた活動のさらなる活性化に取り組んでまいります。

当会は、本年度で設立から10年の節目を迎えました。これまで、多摩地域の持続的発展をめざし、交通、産業、自然環境などの諸課題について調査・研究を重ねてまいりました。とりわけ、地域の将来像を描

く上で、交通システムの充実、産業の振興、そして自然環境の保全が極めて重要であることを、あらためて確認しております。

本年度は、「西多摩地域を応援しよう」をテーマに、西多摩地域展（仮称）やシンポジウムの開催、さらに宇都宮市の交通システムの視察など、実践的な取り組みを計画しています。

今後はこれまでの調査研究の蓄積を土台にしつつ、より多様な視点と新たな発想を取り入れるため、若手会員の参加を促進し、組織の一層の強化に努めてまいります。会員の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

議事では、2024年度の事業報告および決算が承認され、あわせて2025年度の事業計画と活動予算案も了承されました。また、役員人事として、2名の現監事に加え、新たに石川貴久氏が監事に推薦提案され全会一致で承認されました。

2025年度の  
総会が開催されました

2025年5月22日、多摩都市構想研究会の2025年度総会が立川中央病院にて開催されました。

開会前に、いつも会場を提供くださつてある立川中央病院木村政人理事長からご挨拶があり、立川・多摩地域の発展のため、当研究会が益々、活発な活動をすることを期待しているとの挨拶がありました。

総会では、櫻井会長の挨拶のあと、渡井副会長が議長に指名され議案審議に入りました。また、総会終了後、当会副会長・（公財）小笠原協会会長渡井信和氏による『陛下の平和旅』の講演がありました。（後日掲載）

武蔵村山市

## 「多摩都市モノレール沿線」

まちづくり方針

武蔵村山市は、令和7年3月に「多摩都市モノレール沿線まちづくり方針」を公表。これは、延伸計画（上北台-箱根ヶ崎）の手続きが開始され、駅の整備予定位置などが公表されたことを受けたものです。

延伸計画は、上北台から箱根ヶ崎まで7キロ、7駅を配置することから、駅間を計算すると1・17キロ程度。モノレールは軌道法に基づくため、新青梅街道の拡張が前提になりますが、概ね50%程度の用地が確保されたと言わされており、2030年代半ばの開業予定とされています。

武蔵村山市の人口は、近年減少傾向(本年5月1日現在69,428人)にあります。また、人口問題研究所は、同市の人口が2060年度には、5万6千人程度になると予想していますが、同市はモノレールの延伸効果で85千人と現在よりほぼ1万5千人増、研究所の予想より3万人増の目標を立てています。

(多摩都市モノレール導入効果の一考察)  
当会の自主研究(ホームページ掲載済)  
として、1995年と2020年のモノレール沿線市の人ロ比較がありますが、夜間人口は、1.39倍、昼間人口も1.14

倍になつていました。如何に多摩モノレールが人口増加に寄与したかが分かります。

## 多摩モノレールの延伸計画

開業予定  
2030年代半ばの予定

線路の起終点  
起点：東京都東大和市上北台一丁目5番2  
終点：東京都西瑞穂町箱根ヶ崎字狭山253番3

線路の延長  
7.0km



（今後の展望）  
武藏村山市のほか、東大和市、多摩市、町田市も「沿線まちづくり構想」を策定し始めています。

多摩地域の交通のネットは、南北です。かつて東京及び周辺県の発展の基盤となつたのは、甲武鉄道(現JR中央線)や小田急線、京王線、西武線です。すべての路線が東西に走り、23区への輸送路です。しかも、すべて100年以上前に開設されています。安価な荒野に線路を通し、当時は周辺地域の開発収益を見込みました。

この地域の中を横断的に活性化し、400万を超える市民の願う利便性や暮らしやすさ、ふれあいです。100年前に何もないところに敷設された各線と、すでに一定の開発が済んだ多摩の南北を繋ぐ路線とでは事情が異なります。歴史的視野を持ち、多摩地域の持続的発展と、多摩地域都民のための交通インフラの整備に、再度目を向ける必要があります。左は多摩の全長93kmに及ぶ「8の字状のモノレール構想」です。

